



## “老婆”は「妻」，“娘”は「お母さん」

大学で中国語を選択しているのなら、以下のことは何をおいても知っていなくてはならない。

“手紙” shǒuzhǐ と書いて、これは「トイレットペーパー」という意味だ。

“老婆” lǎopo は何と「女房、妻」という意味だ。どんなに若くても“老婆”という。あたかもどんなに若くても先生のことを“老師” lǎoshī と言うが如し。

さらに“娘” niáng とは「お母さん」のことだ。中国女性に惚れて、「娘さんを私にください」と言うときには気をつけなければならない。間違っただけで彼女のお母さんを小躍りさせてはならない。

これらは「日中同形異義語」と言う。日本語と中国語で漢字は同じ、あるいは元の漢字は同じ、もちろん発音は全然違うのだが、それでも見た目、形は同じなので、日中同形という。意味は違う、すなわち「異なる義」だ。以上、まとめて「日中同形異義語」というわけだ。

こういうのが最近テレビとか雑誌のクイズによく出る。これからどんどん頻出する。できないと、「お前は大学まで行って中国語をとったのに、こんなことも分からないのか。本当に単位をとったのか？」と疑いの眼でみられることになる。ゆえに、有名な日中同形異義語は心得ておかねばならないのである。

例えば“汽车” qìchē は「汽車」にあらず「自動車」だとか、“汤” tāng, これはもとの字は“湯”で、日本語なら「お湯」だが、中国語では今「スープ」という意味だ。日本に来たばかりの留学生は日本の銭湯に大きく「亀の湯」とか「鶴の湯」とあるのに驚く。「亀のスープ」や「鶴のスープ」を売っている。日本人はそこに洗面器を持って買いに行く。中に入ってみると「男スープ」「女スープ」とある。男も女もすすんで裸になっている。人間もスープにされるようだ。なんというおそろしい国だ。銭湯を逃げ出して、振り返ると、高い煙突から煙が立ち昇っている。さてはあれは人間を釜茹でにしてスープを作っているためか。——と、まあ、このぐらゐの小咄はできなくてはならない。

クイズに出そうなものとしては“女足” nǚzú がある。これは「女の足」ではなく「女子サッカー」のこと。“女子足球” nǚzǐ zúqiú の略である。“三明治” sānmíngzhì が「サンドウィッチ」とか、“可口可乐” kěkǒu kělè が「コカコーラ」というのは日中同形ではないが、覚えておきたい。

“麻雀” máquè は「マーじゃん」にあらず、中国語では「雀」のこと。マーじゃんは“麻将” májiàng と言う。人の名前では“花子” huāzi がなんと「乞食」という意味になってしまう。

1年生ですぐに習う中国語にも日中同形異義語がふくまれている。

日本語の「大家（おおや）」さんは家主のことだが、中国語では「みんな、皆さん」という意味になる。「みなさんこんにちは！」は“大家好！” Dàjiā hǎo! だ。

“飞机” fēijī は「飛ぶ机」だ。しかし、“机”というのは実は“機”の簡体字。そうと分かればこれは「飛ぶ機械」で「飛行機」と納得がゆこう。

ちなみに「手机」shǒujī は「手に持つメカ」で「携帯」のこと。「耳机」ěrjī なら「イヤホン、ヘッドホン」だ。「死机」sǐjī となると「死んで動かないメカ」でパソコンが「フリーズする」ことだ。

中国語の「新闻」xīnwén は「ニュース」の意味。「新聞」のことは「报」bào とか「报纸」bàozhǐ という。《人民日报》Rénmín Rìbào がいい例だ。

「便宜」という、あまり使ったことのない語が中国語ではよく出てきて、これは「値段が安い」という意味であることを学んだ。「便宜点儿好不好？」Piányi diǎnr hǎo bù hǎo? (もっと安くしてくれ) という値段交渉のとき欠くべからざる 1 語だ。

「嘘も方便」などという「方便」が中国語では「方便」fāngbiàn と言い「便利」という意味。「方便店」fāngbiàndiàn は「コンビニエンスストア」だ。

そういえば「猪」も中国語では「ブタ」という意味になる。中国にも「猪年」zhūnián があるがこれは「ブタ年」だ。で、イノシシのことは「野猪」yězhū と言う。「野生のブタ」ということだ。

それから肝心の「勉強」miǎnqiǎng。これが中国語では「無理をする」という意味で「学習する」という意味はまったくくない。

「経理」と言えば「会計」のことだが、中国語の「经理」jīnglǐ は企業の責任者やある部門の統括者を指す。つまり、支配人やマネージャーだ。「经理」の最上位が「总经理」zǒngjīnglǐ で「社長」だ。

最後にこれを忘れてはならない。中国語の「爱人」àiren は「愛人」にあらず「配偶者」の意味である。だから「これは私の“爱人”です」というのは、男性が言えば「妻」を、女性が言えば「夫」を紹介していることになる。

とりあえずこのぐらゐの知識があれば、大丈夫、世の中渡ってゆけるかな(?)。